

オキザリプラチンによる末梢神経障害の予測因子探索

2015年1月1日から2021年10月31日までに大腸癌のために補助化学療法を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「オキザリプラチンによる末梢神経障害の予測因子探索」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2015年1月1日より2021年10月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、大腸癌のために補助化学療法を受けられた患者さんの末梢神経障害発症メカニズムを調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：オキザリプラチンによる末梢神経障害の予測因子探索
研究期間：研究実施許可日～2024年10月31日
研究責任者：日本医科大学薬理学 坂井 敦

(2) 研究の意義、目的について

オキザリプラチンを用いた化学療法を行うと多くの患者さんでは末梢神経障害（手足のしびれ）が発症します。現在有効な治療がなく、症状が改善するまでに1年以上かかります。発症メカニズムもわかっていないため、有効な予防法もありません。この研究ではオキザリプラチンを用いて化学療法を行った患者さんとオキザリプラチンを用いないで化学療法を行った患者さんの血液内のRNAを比較し、オキザリプラチンによる末梢神経障害発症のメカニズムを明らかにすることを目的といたします。発症メカニズムがわかれば、有効な発症予防法が開発できる可能性があると考えています。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2015年1月1日より2021年10月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、大腸癌に対する補助化学療法（術前化学療法または術後の再発予防のための化学療法）を受けられた患者さんの血液中のRNAなどを解析し、末梢神経障害発症のメカニズムを検討します。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：血液（化学療法開始前、施行中、終了時にすでにいただき、保管しているもの）

情報：年齢、性別、使用した抗癌剤の種類と量、期間、末梢神経障害の有無

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学 薬理学 講師 坂井敦
〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：5272
メールアドレス：sa19@nms.ac.jp